

みんなのSDGs賞

企業規模：NPO／業種：NPO／地域：全域（海岸）

プラごみバスターズ事業（NPO法人海の森・山の森事務局）

取組の概要

神奈川県海岸線およそ400kmを全て歩いてごみ拾い。
2020年4月に湯河原出発。毎月一回一筆書きのように実施。
およそ5年かけて、2024年12月多摩川河口にゴール。
今後：収集したデータに基づき、エリアを集中して活動。
データは公開し、広く活用してもらう。

該当するSDGs目標（3つまで）



取組を始めた動機・課題

メンバーは全員神奈川県在住。数十年も暮らしている。
⇒ **でも、県内の海岸のごみの実態すらよく知らない**
ならば、神奈川県の海岸線を全て歩いてみよう！
⇒ **ごみを拾いながら、プラごみ分布の実態を調査。**
ドローンも使って、海岸線の様子も撮影。

解決に向けた具体策と成果

ごみを分別の上、計量。ごみを見える化。データを分析。
⇒ **今後の取り組みを、効率的に実践できる。**
スピード感持って、県内の海岸のごみを処理できる！

取組による定量的な効果

回収したごみの総重量 **3トン超！**
約7割が、半島部や人の入りにくい岩場・磯場に集中。

取組のポイント

今後、これらのデータを基に、行政や企業、諸団体と協働。
⇒ **海岸美化にみんなで取り組む基礎ができた！**

みんなのSDGs賞

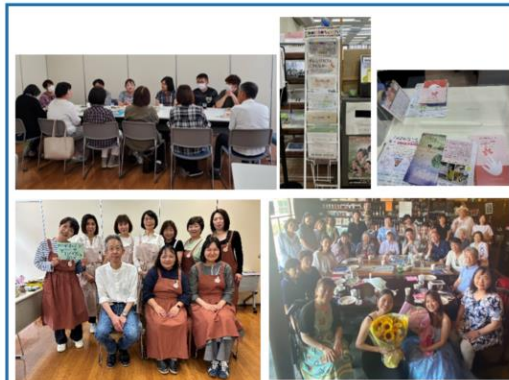
企業規模：一般社団法人／業種：福祉／地域：県西地域

あらゆるケアする人をケアする「ケアラー支援」（一般社団法人MilkyWay）

取組の概要

福祉等の知識や様々な経験を活かし、あらゆるケアする人をケアする「ケアラー支援」を行う。本音と弱音が言える場づくりとしてのケアラーズカフェLuanaや講演会等を開催することにより、ケアラーは自己認識しサポートを求めることができ、一般の方はケアラーの理解を深められる。誰もが誰かをケアできるまちづくりを行っていく。

該当するSDGs目標（3つまで）



取組を始めた動機・課題

少子高齢化、核家族化が進む中、課題は複雑化している。障がい者や高齢者など当事者への支援はあるが、ケアする側の支援はなく疲弊・孤立する姿がある。福祉等の人手不足は深刻で介護崩壊の危機も耳にする。今後、ケアする人達の負担はさらに大きくなり、ヤングケアラーや介護離職などの課題が常態化することが危惧される。

解決に向けた具体策と成果

ケアラーズカフェを月1回開催。ケアラーに関する講演会、映画上映会等を行う。チラシや広報誌等を公共機関、病院、店舗等に配架。支援団体のネットワークづくりを行いコンサートやパザーでは幅広い層にケアラー支援を伝えている。

取組による定量的な効果

ケアラーズカフェの横の繋がりとして連携2箇所。ケアラーズカフェLuanaで会員を含め11月迄に延べ98名の参加実績！

取組のポイント

ヤングやビジネスなどのケアラーのほか、ケアの仕事をする人や従業員のケアが必要とされる責任者等も含まれる。

神奈川県中小企業診断協会賞

企業規模：中小企業／業種：建設業／地域：県央地域

若手の育成と独立支援で建設業を盛り上げる！（株式会社小池設備）

取組の概要

社内の慢性的人手不足、建設業界での若手人材確保の課題解決に向け、最短6年で独立可能とするプロジェクトを立ちあげた。独立しても弊社のノウハウは全国で活かせることになり、ネットワークを広げられると考えた。経験を積む中で、ここで頑張りたいと心機一転を考える若手も戦力になっている。

該当するSDGs目標
(3つまで)

取組を始めた動機・課題

若手が少ない...どの業種でも抱えている問題ではないでしょうか。特に私たち水道屋の多くが「廃業」に追い込まれています。会社がなくなれば社員、頼りにしていたお客様、地域が困ります。そこに歯止めをかけるべく、若手人材の育成・輩出に注力。全国にネットワークができればと思い、プロジェクトを立ち上げました。

解決に向けた具体策と成果

全国より10名の独立支援希望者を受入れ。仕事やセミナー、勉強会を通じて、自身の夢やなりたい姿を見出している。既存社員の刺激にもなり離職率3%と定着率が上がった。

取組による定量的な効果

1名プロジェクト卒業し、地元に戻り家業の後継者となる。神奈川県で頑張りたいと奮起し弊社の戦力として6名在籍。

取組のポイント

人材育成は「コスト」ではなく「投資」。社内全体の意識改革と採用理解へ努めることが経営のボトムアップになる。

神奈川県中小企業診断協会賞

企業規模：その他／業種：その他／地域：神奈川全域

子供たちの手で！書道紙リサイクルプロジェクト
(一般社団法人エコ再生紙振興会)

取組の概要

学校等の授業で出る使用済み書道紙を子供達の手により集め、それらを回収して『未来箋』に再生化、再び授業の中で子供たちの手に還していく資源循環型のリサイクル活動です。校内の書道紙ごみゼロは、各自治体のごみ問題にも貢献でき、ものを大切にする啓発にも寄与し、教科書にも掲載される活動に発展して、すでに全国に広がっています。

該当するSDGs目標
(3つまで)

12. つくる責任：使用後の書道紙を全回収

↓
『未来箋』へ再生！

↓
つかう責任：子供たちが授業で活用

↓
【成果：校内のごみが教材に!!】

4. 学校での生きた環境教育の教材にもなる

11. ごみ削減に子供たちが校内で参加する

取組を始めた動機・課題

古紙リサイクルにおいては、墨のついた書道紙は回収不可品の扱いで、そのほとんどが可燃ごみとなっていました。ごみ削減の現代社会で、書道文化が適応していくためには、書道紙の再生の仕組みが不可欠と考えました。神奈川全域の自治体への提案の停滞が課題です。

解決に向けた具体策と成果

「授業等で練習する書道紙はグレーではダメですか？」と教育機関に投げかけました。すると「環境に配慮したグレーならば可！」の多くの声から一気に広まりました。

取組による定量的な効果

神奈川西部地域1市8町の全小中学校で『未来箋』の授業が実現。（実績12年：毎年約3トンのごみ削減と有効活用）

取組のポイント

次代への環境社会に根ざした書道文化の継承が主たる目的でしたが、環境教育の側面としても評価されています。

みんなのSDGs連携賞

神奈川県・県西エリアを中心に44か所の学童クラブが参加！

黑板壁紙端材を使った「SDGsアート」制作

(株式会社明日葉×株式会社デコリア)

取組の概要

デコリア社が製造する黑板壁紙の端材をキャンバスにし、明日葉が運営する学童クラブの児童が**自分の暮らす街の魅力を描いた**。デコリア社と数か所でワークショップを実施。制作には小田原市をはじめ**44か所のクラブ**が参加。**夏休みに各地域間交流を目的にオンラインで互いの作品を発表**。作品は「おだわらSDGsデイ2024」でも展示された。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

児童がみんなで一つの作品を作り上げて共有し合うことで、自分たちの街を好きになる**シビックプライドの醸成**や、**身近にある自然を大切に**する気持ちを育む、**リサイクル意識を高める**など、SDGsへの学びを深めるため。

解決に向けた具体策と成果

「(SDGsを)学ぶ」「描く」「シェアする」「発表する」という過程で作品を制作。SDGsを意識づけられるよう各過程で工夫をした。

取組による定量的な効果

前年度に対し交流が小田原市をはじめ南足柄、湯河原、山北、大磯、静岡県長泉町と5エリア拡大。作品数も約2倍。

連携のポイント

デコリア社が明日葉クラブにてワークショップを実施。成果発表として各地域のクラブを繋いで交流。

みんなのSDGs連携賞

プラスチックと糸のアップサイクル体験でリサイクルをより身近に！

(株式会社湘南貿易×大貫繊維株式会社)

取組の概要

プラスチックをアップサイクルしてキーホルダーを作るワークショップを企業へ提案・実施していたがストラップは既製品を購入していた。企業連携で廃棄予定の糸からストラップ作り体験も実施することができるようになり、1つのワークショップで、プラスチックと糸のリサイクルについて伝えられるようになると共に、イベント受注費用も1.3~1.5倍向上させることができた。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

マニュアルインジェクション装置を自社購入し、PETボトルキャップ等からリサイクルしてキーホルダーを作るなど廃プラスチックのリサイクル普及に力を入れてきたが、プラスチック以外のリサイクルも伝えられればより説得力があるのではと考え始めた。

解決に向けた具体策と成果

ペットボトルのリサイクルで紐を作っている企業様は何社あったが、よりエコな残糸をアップサイクルしてストラップや靴紐等の制作をしている大貫繊維様を神奈川県庁のイベントに参加した際に知り、ミーティングを重ね一連でのワークショップが可能となった。

取組による定量的な効果

ストラップ作りもワークショップとして受注できるようになったので、**1件あたりの売り上げが1.3~1.5倍に上昇**。

連携のポイント

プラスチックも糸もどちらも参加者がものづくりを体験できる事が共通していた点。